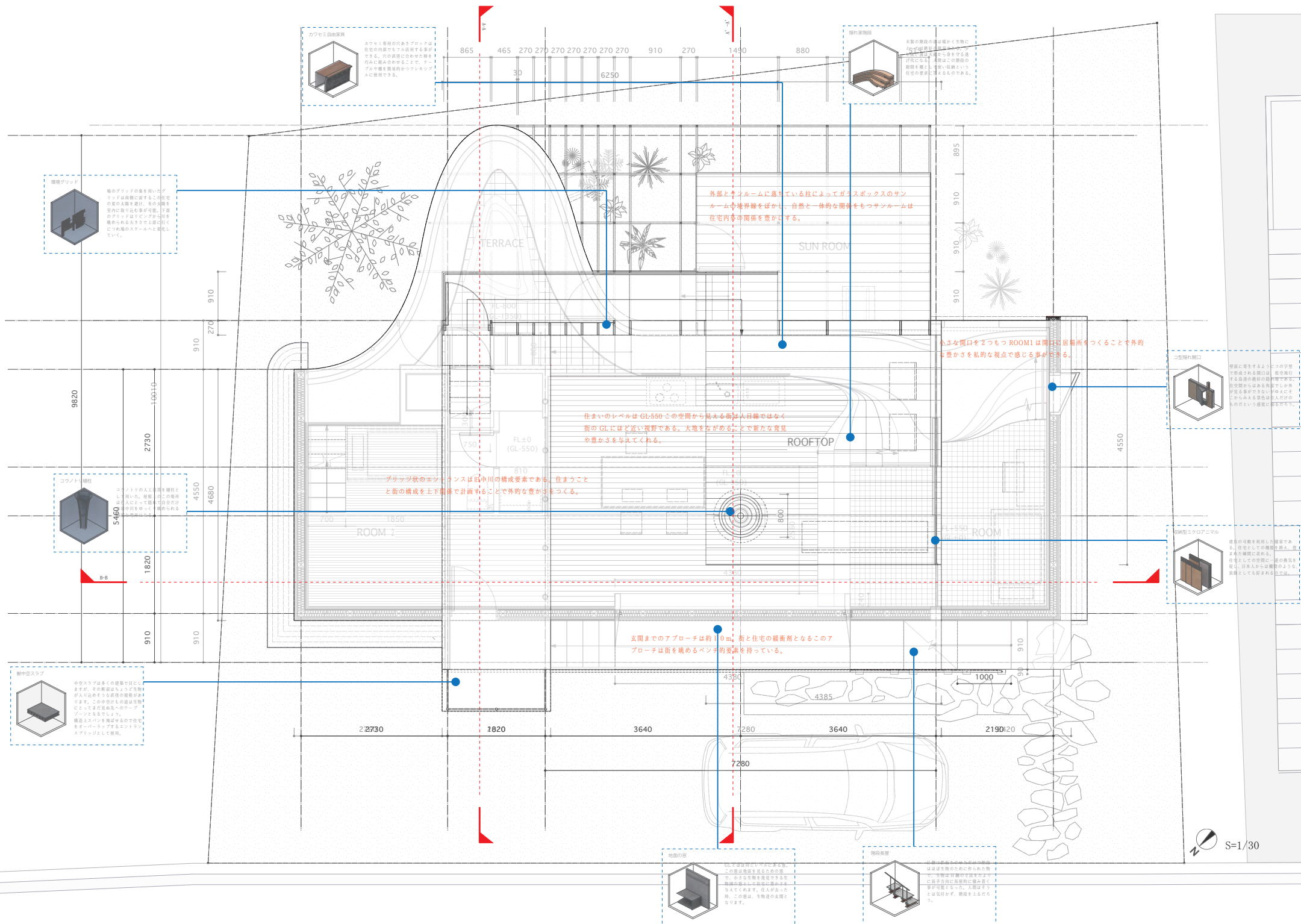




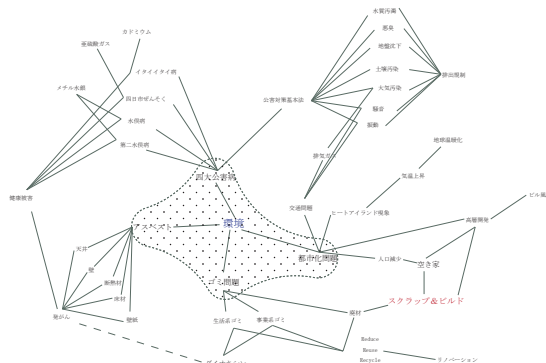
・ ・ ・ 生 物 の 芽 を 持 つ 住 宅 ・ ・ ・
Houses with public sprouts

本研究は、異なる時系列をもつコンテキストを1つの住宅として形をつくり、その住宅の姿容を描いたものである。住まいはやがて生態系に還元され、この街をビルドアップする第2の自然として位置づけられる。こうした住宅の時系列は空き家問題に対し、リノベーション的処置ではなく、建築としての循環を示したものである。

. . . P L A N . . .



背景 >>> 環境的視點

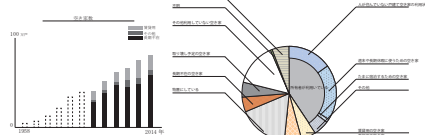


地球の環境問題は複雑に絡み合っています。その中でもモノづくりをする人にとっての環境問題としてスクラップとビルドやそれを生み出す消費的なストックとして存在する空き家に着目します。この問題は建築だけではなく地球環境（主に日本）に及ぼす問題でもあります。

材 料
M a t e r i a l

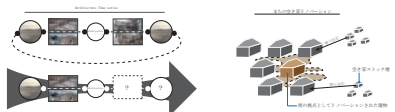
1 >>> スクラップアンドビルド・空き家

>>> 空き家の行方

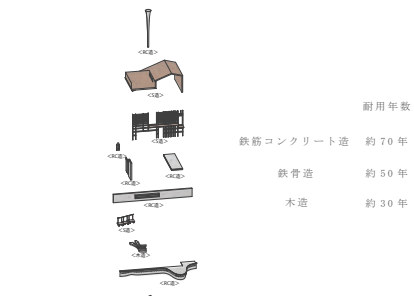


高度経済成長期に大量供給され、現在寿命を迎えた住宅は空き家となって都市問題まで発展しました。空き家の半数以上は所有者が利用をしていなく、良い意味ではストックといわれています。

>>> リノベーションが生む事



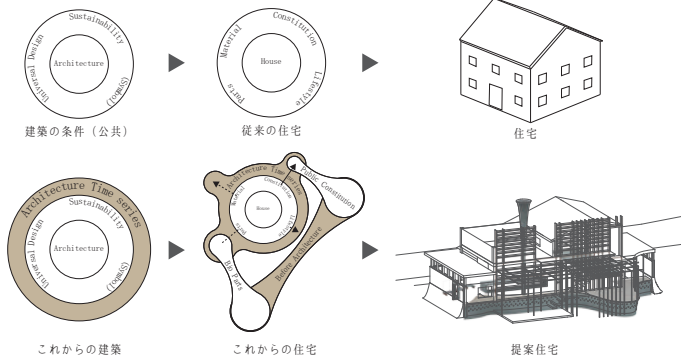
寿命を迎えた住宅、持続性を失った公共施設を再生させる試みが近年では多く見られる。しかし、そのストックの活用方法が人間的ニズに偏りすぎているような傾向があると考えられる。人口減少にある日本でストックを人のために再生するは一方では、他方のストックを増やす可能性もあるようにも見える。



この住宅は空き家となり一部スクラップされることを受け入れて設計します。
スクラップされる部分は耐用年数を参考にし木造部分とします。



建築 >>> 住宅



住宅設計はクライアントと建築家一定の住まい方を担保しながら設計するが、住まい手が一個人である以上、その住宅の時系列は住まい手の寿命または建築の物理的寿命によって終わりを迎え、空家空室となります。住宅の要素（材料・部分・構成・住まい方）の作付方をコンテクストを拡大解釈し、社会的な要素で作ります。住まいが住まいでなくなると、この住宅は社会的媒介を通じて街へ向かれた大地となります。

部 分
P a r t s

2>>>BIRD SANCTUARY = 生態系

>>> 観光資源としての生態系



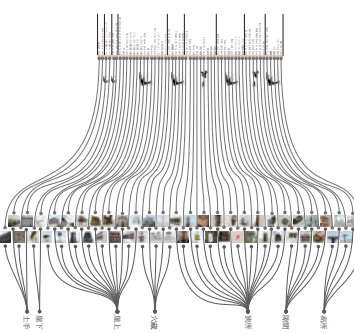
旧中川にはカワセミをはじめとする多くの野鳥が生息、または往来しています。これらを見に来る人々にとってこの場所はバードサンクチュアリとなりえる可能性をもっています。



>>> BIO ARCHITECTURE

人間と生態系が関わりをもてる、または保護を目的とした事例として、作られたのがバイオアーキテクチャです。

この建築的特徴を拾い上げ、住宅の部分へと変換させていきます。棚はハトのグリッドと人間のグリッドをグラデーションで関係させ、冬至と夏至の日射制限をする環境グリッドになります。こうした部分を事例と住宅の部分から作り上げます。



生態系建築



住宅要素



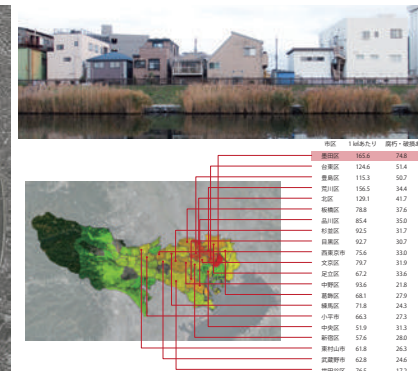
混成体



敷地 >>> 墨田区旧中川



旧中川（きゅうなかがわ）は、東京都江戸川区と墨田区、江東区の境界を流れる全長 6.68km の河川である。墨田区は木造密集地として首都圏でも最大の空き家数を抱える場所です。近年では、都心への近接性、交通の利便性等の立地条件から、住・商・工が混在した従来からの集約的市街地に加え、新たに商業施設・オフィスビル等が連立し、業務機能の集積が顕著に進行している。その中でも、高層の統合住宅は河川沿いの新工業地帯に建設され、河川と街といふ一体の図像が人口増加によって磨かれてきている。



構 成
C o n s t i t u t i o n

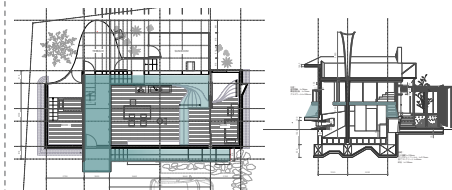
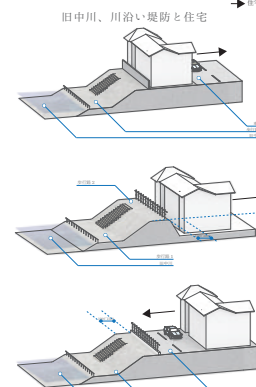
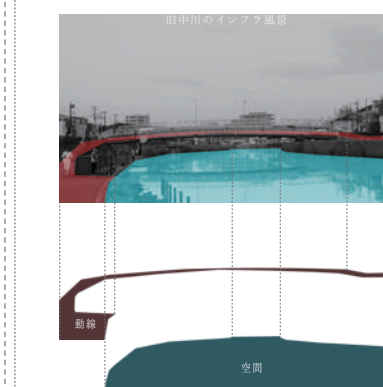
3>>> 固有の地形

>>>BIRD 川と街と日常



選定した敷地の詳細は旧中川の一角。元々は埋め立て地であったが、この場所は地域住民にとってペットの散歩やラジニングなど日常の中のニッチとなる場所になりました。

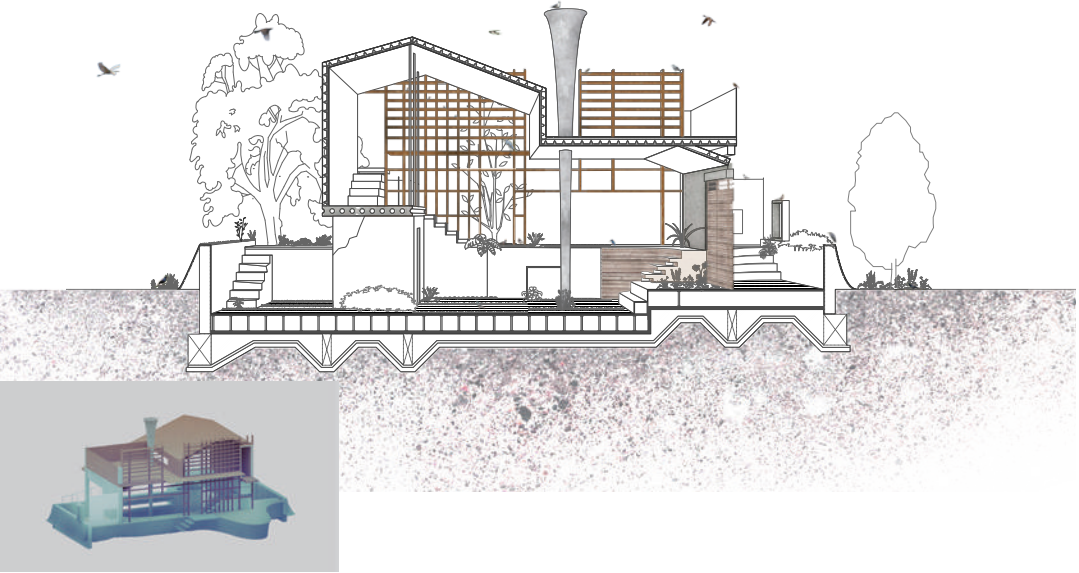
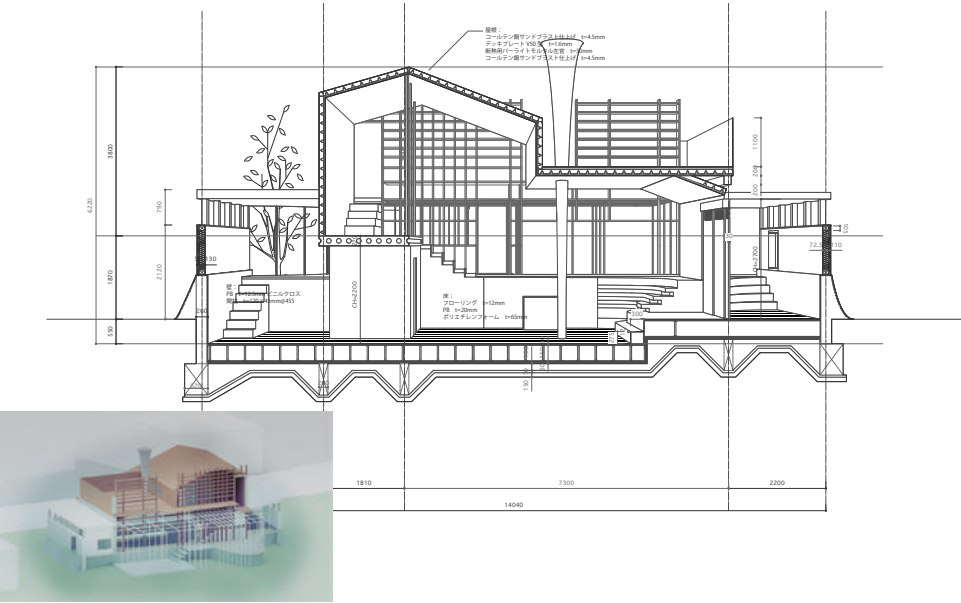
>>> 街の構成を刻む住宅



日常的に利用する、または無意識に感
ている旧中川の微地形を、住まう住宅
ランに反映します。旧中川のブリッジ
川の関係を動線と空間、さらに堤防の
下運動を動線に加え立体的なアプロ
からエントランス、そして住空間を構
します。これは個人が街との関係を視
的に繋ぐのではなく身体的に繋ぐこと
住宅と街との関係性を豊かにします。

SECTION - Time series -

生活の一部であった、いくつかのパーツは自律的な Bio Architecture として墨田区田中川に残り、バードサンクチュアリの特徴となります。墨田区のメタファーとしての空間を公共化した住宅は、もはや住宅ではなく第2の自然となり、環境全体のビルドアップするための一歩となります。



使われる主体が生物へと変わる部分図面一覧

